

## 畑雑草の幼植物 (9) イヌガラシ類

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

アブラナ科イヌガラシ属は冷涼な時期に生育する一年生または多年生の草本で畑地、樹園地、畦畔など幅広い立地で見られる。イヌガラシ *Rorippa indica*、スカシタゴボウ *R. palustris* が全国的に見られる。イヌガラシ、スカシタゴボウともに栄養成長の個体が耕起や刈り取りで切断されると、その切断片から萌芽再生し、イヌガラシでその能力が高い。両種とも秋期に発芽が多く、基本的には冬生一年生の生活史をとるが、盛夏と積雪下以外の周年でさまざまな生育段階の個体が見られる。コイヌガラシ *R. cantoniensis* は一年生で関東以西の湿った畑地で見られる。キレハイヌガラシ *R. sylvestris* は北日本に生育し、おもに根系で繁殖する。

イヌガラシ、スカシタゴボウの子葉はいずれも先の円い広卵形で光沢がある(写真-1:イヌガラシ, 写真-2:スカシタゴボウ)。コイヌガラシはだ円形である(写真-3)。イヌガラシ、スカシタゴボウ、コイヌガラシともに第1, 2葉にはまだ鋸歯が不明瞭で縁が波打つ程度で、第3, 4葉から鋸歯があらわれる(写真-4:イヌガラシ, 写真-5:スカシタゴボウ, 写真-6:コイヌガラシ)。幼植物は輪生状に根出葉を広げ、葉柄や葉身の基部は紫色を帯びる。

イヌガラシ、スカシタゴボウ、コイヌガラシともに、生育が進み、葉数が増えると葉身の形態の特徴が明瞭になり、葉縁の切れ込みはイヌガラシ、スカシタゴボウ、コイヌガラシの順に

深い(写真-7:イヌガラシ, 写真-8:スカシタゴボウ, 写真-9:コイヌガラシ)。キレハイヌガラシの種子繁殖の実態はまだあまりわかっていない。耕地では根系断片からの萌芽がほとんどである。葉身は羽状に深裂する(写真-10)。

イヌガラシ類はロゼット状で越冬する。イヌガラシの葉身は頂裂片が大きく、鋸歯は不揃いである(写真-11)。スカシタゴボウの葉身は羽状に深裂し、裂片は円みがあり、頂裂片の縁は波打つ(写真-12)。コイヌガラシの葉身は羽状に深裂し、基部の裂片ほど小さく、各裂片に鋸歯がある(写真-13)。キレハイヌガラシの根出葉はさらに細かく切れ込み、裂片は基部から頂部までほぼ同じサイズである(写真-14)。

イヌガラシ類は4弁の黄色の花をつける。キレハイヌガラシの花冠は他3種に比べて大きく、花期はよく目立つ(写真-15)。イヌガラシ類は果実の形態に特徴があり、イヌガラシの果実は長さ約2cmの線形で少し内側に曲がる(写真-16)。スカシタゴボウの果実はイヌガラシより短く、やや湾曲した長さ5mm程度の長だ円形で、果柄の方が長い(写真-17)。イヌガラシ、スカシタゴボウは茎頂部に総状の花序をつけるのに対し、コイヌガラシは茎上部の葉腋に花を単生し、無柄で円柱形の果実をつける(写真-18)。キレハイヌガラシの果実もイヌガラシと同様、線形で長さ約1cm、果柄は果実とほぼ同長である。



写真-1 イヌガラシの子葉。



写真-2 スカシタゴボウの子葉。



写真-3 コイヌガラシの子葉。



写真-4 イヌガラシの第1~4葉。



写真-5 スカシタゴボウの第1~4葉。



写真-6 コイヌガラシの第1~4葉。



写真-7 第7葉を展開中のイヌガラシ幼植物。



写真-8 第7葉を展開中のスカシタゴボウ幼植物。



写真-9 第7葉を展開中のコイヌガラシ幼植物。



写真-10 キレハイヌガラシの萌芽。



写真-11 根出葉を広げたイヌガラシ。



写真-12 根出葉を広げたスカシタゴボウ。



写真-13 根出葉を広げたコイヌガラシ。



写真-14 花茎を抽出したキレハイヌガラシ。



写真-15 花期のキレハイヌガラシ群落。



写真-16 果期のイヌガラシ花序。



写真-17 果期のスカシタゴボウ花序。



写真-18 苞葉の葉腋に単生する果実をつけるコイヌガラシ。